BookMark

『複雑な世界、単純な法則　ネットワーク科学の最前線』

ネットワークの科学は、広く感じる世界が本当は狭い理由を明らかにできるか

森山 和道（サイエンスライター）

世界はなぜ狭いのか。ダンカン・ワッツとスティーヴン・ストロガッツがミルグラムの「6次の隔たり」を説明する1つの方法を見つけてから、「スモールワールド」と呼ばれるネットワークの研究が流行っている。一般的な社会やインターネット、神経系に至るまで、あちこちで普遍的にスモールワールドが見られるからだ。ここに何か世界の秘密があるに違いない。伝染病や噂話など情報やエネルギーの伝達、生態系の仕組みについてスモールワールドはどんなことを教えてくれるのか。本書は、現在進行形の研究の物語である。ネットの成長や構造についてもかなりの紙幅が割かれている。

世界を狭くするにはどうすればいいのだろうか。ただ闇雲に点と点を繋げばいいわけではない。また実際の世界は明らかにランダムな繋がりを持っているのではなく、あるまとまりを持ってクラスター化している。「強い絆」で結びつけられた地域や企業、学校、友人たちだ。現在ではクラスターとクラスターを繋ぐ「弱い絆」が世界を狭くする要因の1つであると分かっている。

だがスモールワールドの作り方はこれだけではない。たとえばネットはクラスターが繋がっているというよりも、少数のハブが莫大な数のリンクを持つことで狭くなっている。そしてハブの出現もまた一般的なのだ。なぜこうなるのか。ここから先は本を読んでもらいたい。

マーク・ブキャナン 著
阪本 芳久 訳
ISBN4-7942-1385-9
2,310円
草思社

『今週、妻が浮気します』

『電車男』に続く掲示板収録型恋愛ストーリー ウェブコンテンツを転載した書籍は今後も続くか

山川 健（ジャーナリスト）

ウェブに書かれた内容を、誤字脱字の修正や読点句読点を追加削除しただけでほぼそのままプリントし、書籍化したスタイル。主人公の書き込み（質問）と、それに対する意見（回答）で構成されている。すでにヒットした『電車男』に次ぐ2匹目のどじょうと言えなくもないが、本書からは、こうした形での書籍刊行が今後定着しそうな気配も感じられる。

Q&Aサイト『OKWeb』を利用したgooのコミュニティー、『教えて！goo』に書き込まれた質問と回答が本書のすべて。完全匿名サイトを舞台にした電車男と違い、主人公が誰なのか、特定できているという。妻の浮気を知った夫（主人公）が現場に乗り込み、最後は復縁するという、ありがちなストーリー。いかにもでき過ぎた内容だが、主人公の考え方は稚拙で独りよがり。“素人”臭にあふれ、逆に真実味がある。

事の発端は主人公が妻のケータイメールを盗み見たこと。「携帯を世に送り出したNTTさえ恨む気分」になる。その後、自らの書き込みを妻に読まれ、人格を疑われる。しかし、インターネットがなければ夫は多くの人に励ましてもらえなかった。半面、ネットがなければ妻は浮気できなかったかもしれないし、復縁は簡単だった可能性もある。ストーリーはともかく、背後にあるネットとの関係を考えながら読んでみると、また別の興味もわいてくる。

GoAhead & Co. 著
ISBN 4-12-003609-X
1,050円
中央公論新社

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『ビジネス ブログ ブック』

小川 浩、四家 正紀、上田 一吉 著
ISBN4-8399-1710-8
1,764円
毎日コミュニケーションズ

ビジネスブログへと誘う先人たちの書
個人と組織の間でブログは何を生み出せるのか

増田 真樹（ジャーナリスト）

猛スピードでIT業界を駆け抜ける著者たちの思考録やブログ界のキーマン達へのショートインタビューで構成されるこの本は、ビジネスシーンでブログを活用するためのアイデアに満ちている。実際にブログのシステムを使って記録する手法で作られた本書は、ブログの機能やその効果をしっかりと押さえつつ、ブログ界のスピードを感じさせる内容となっている。ブログをかじったことがある人なら、本書にちりばめられたエッセンスを読み解き、自分なりの発想を広げるきっかけになるはずだ。

興味深いのは、ビジネスブログを“外部向け”と“イントラネット向け”に分け、組織がブログとどうつきあっていけばいいのかを考察している点だ。イントラネットでは、より柔軟かつ効率的な情報共有の手段として活用することを提言し、グループウェアなどとの差だけではなく、実際導入する場合に問題となる既存システムとの共存や共生についても述べられている。また、外部向けには、ブログを営業マンと見立て、メッセージを発信することの重要性を説き、実際に筆者らが手掛けた事例などから情報配信の特徴を広く取り込み紹介している。

具体的な事例が少ないせいもあって、仮説に終始する部分もあるが、見えにくいビジネスブログの可能性を浮き彫りにした本書は、2005年のネットビジネスに大きな影響を与えるのは間違いなさそうだ。

『3G&GSMケータイ活用事典　海外でも買エル使エル』

進む！ ケータイのオープン化
来たるべき世界標準を一足早く使いこなすために

編集部

老若男女、日本人はケータイが大好きだ。そして、累計約8,000万台の市場ができ、日本は世界でも有数のケータイ先進国になったといわれている。

しかし、そんなケータイは実は日本国内だけでしか通用しない、閉鎖市場向けの商品だったのだ。これまでの2.5Gケータイでは、一部を除いてPDCという日本独自の通信方式だったため、利用は国内に限定されていた。おのずと市場規模も決まってしまう。さらに、ケータイ電話会社が端末開発費を端末メーカーに払って「開発してもらっている」という状況では、健康的な市場競争も働きにくい。

しかし、3Gの時代にはそうした概念が大きく変わる。ケータイが海外で使えるのはあたりまえ、端末そのものから、組み込まれているチップ、OSにいたるまで世界共通のものとなる。

ケータイ端末の製造も、ノキア、モトローラ、サムスンなど日本ではなじみの少なかった国際企業が製品を投入してくるだろう。PDAまで含めたいわゆるスマートフォンと呼ばれているものをはじめ、実に多様なケータイ端末が世界にはある。こうした多様化は、メーカー間の競争が激しいからこそ起こっている。

本書はそんな時代に先駆けて、海外でケータイを活用するためのさまざまなテクニックが解説されている。これまで一部のケータイヲタクが培ってきたような裏ワザが満載の本なのである。

山根 康宏・なかのたかし 著
ISBN4-7973-2908-4
2,520円
ソフトバンク パブリッシング

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.